

平成29年度 学校評価アンケート(教職員用)

回収 131/131

(100.0%)

A : そう思う B : ややそう思う C : あまりそう思わない D : そう思わない

NO.	評価項目	A	B	C	D	無回答
1	児童生徒がやる気をもって学習に取り組めるような授業が行えていますか。	37.4%	57.3%	3.1%	0.0%	2.3%
2	児童生徒にとって楽しい学校生活づくりができていますか。	55.7%	42.0%	0.0%	0.0%	2.3%
3	校舎改築工事中の児童生徒の移動経路や保護者の送迎経路等は、安全に配慮できていると思いますか。	54.2%	44.3%	1.5%	0.0%	0.0%
4	あなたは、「個人ファイル」を日々の教育活動における支援や指導の計画に役立てることができそうですか。	16.0%	65.6%	14.5%	0.8%	3.1%
5	「自立活動の宅急便」の取組は、児童生徒の指導や支援に役立つものだと思いますか。(自立活動室の職員が学級に訪問して、学級担任と一緒に姿勢づくりや学習環境、自立活動の授業づくりなどの検討を行う取組)	55.0%	42.0%	0.8%	0.0%	2.3%
6	「個別的教育支援計画」を校内の打合せ(寄宿舎・自立活動室など)や、サービス担当者会議に持ち込むことで、話し合いの効率化や、お互いの取組の情報交換につながったと思いますか。	45.0%	48.1%	3.8%	0.0%	3.1%
7	アセスメントチェックを活用して、児童生徒の実態について共通理解を図り、日々の指導に生かすことができましたか。	22.9%	59.5%	13.0%	1.5%	3.1%
8	アセスメントチェックや日頃の見立てなどを通して、児童生徒の将来の姿を見据えたり「できかけているところ」に焦点をあてたりして、授業づくりに取り組むことができましたか。	25.2%	60.3%	9.9%	1.5%	3.1%
9	ICTに関する研修(2days、学習会)で、新しい知識や情報を得ることができましたか。	39.7%	51.9%	5.3%	0.0%	3.1%
10	あなたは、人権・同和教育学習の各コースにおける学習観点例などを参考にして、児童生徒の実態に応じた人権学習の実施ができましたか。	26.0%	58.0%	13.0%	3.1%	0.0%
11	児童生徒および教職員のあいさつの励行はできていると思いますか。	45.0%	48.1%	6.1%	0.0%	0.8%
12	児童生徒への廊下をゆっくり歩くという指導は、行き届いていると思いますか。	27.5%	61.8%	9.9%	0.8%	0.0%
13	児童・生徒の卒業後の生活を見据えた進路指導を実施することができましたか。	37.4%	48.9%	10.7%	0.8%	2.3%
14	学校給食において、楽しい雰囲気づくりや安全に配慮して摂食指導ができていますか。	55.7%	40.5%	1.5%	0.0%	2.3%
15	「ほけんだより」や教職員に対する全体周知等及びホワイトボードでの連絡票を通じて、感染症対策が徹底できていると思いますか。	58.8%	39.7%	1.5%	0.0%	0.0%
16	避難訓練で、防災意識は高まっていると思いますか。	45.0%	50.4%	3.8%	0.0%	0.8%
17	寄宿舎での舎生中心の集団活動や、できることを伸ばすための係活動は、舎生の自立や社会性の向上につながっていると思いますか。	44.3%	43.5%	1.5%	0.8%	9.9%

【総評】

どの項目でも、8割以上の肯定的な評価(A又はB)を確認することができた。

【自由記述に基づく課題及び今後の対策】

①スクラップ&ビルドについて

「スクラップ&ビルドの部分で何か成果はあったのか。」という指摘に対して、各部や各分掌で実施した業務改善につながる工夫(例えば、会議数の削減、記録ファイルの一元化や廃止等)について表にまとめ、職員会議で具体的に周知し、その効果等を共有した。今後も引き続き、各部・分掌でスクラップ&ビルドについて検討・試行する予定である。

②エコオフィスの意識について

本校の建築改修工事は今年度末に全て終了となる。学校運用上は、次年度以降の光熱水費を基準としたものになる。今後は「月間消費額」等を示すと同時に、経費節約につながる具体的な行動を示唆しながら、今まで以上に、エコオフィスの意識を高めていきたいと考えている。

③児童生徒に対する教師の接し方について

学校は子どもたちが主役であると言うことを全職員が認識すべきである。例えば、「子どもたちにとって失礼な言動をとっていないか。」「誠意をもって日々かかわることができているか。」と常に振り返り、意識し合える職場であるべきだと言う意見があった。

グランドデザインを基軸とし、誠意をもって子どもたちや保護者にかかわる「チーム高養」を目指したい。